

鳥羽シニアワセ研究所

vol.3

企画経営室

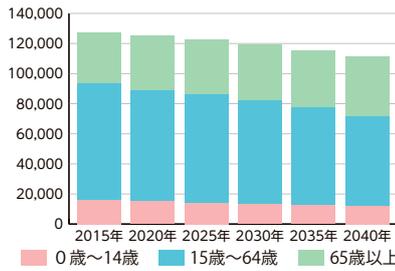
☎(25) 1101

(地域活性化起業人 難波潤史)

これからのまちづくりを考えるにあたって、鳥羽市役所では二〇四〇年を一つの目安としています。「え？そんな先のことを今から考えるの？」と思われるかもしれませんが、なぜ今から考える必要があるのかをお話したいと思います。

力不足に直面する可能性を示唆しています。しかも75歳以上の人口は二〇五四年まで増え続ける見通しで、これが二〇五四年問題です。

全国の人口の推移
2015国勢調査および
人口問題研究所推計値(千人)



鳥羽市の人口は二〇四〇年には一万人まで減少すると予想されていますが、人口減少は鳥羽だけでなく日本中で起こる現象です。二〇二五年・二〇四〇年・二〇五四年の3つの問題をご存じでしょうか。

二〇二五年問題とは、団塊の世代が全て75歳以上になり、医療費・介護費が一層増す可能性がある分岐点の年です。二〇四〇年問題とは、二〇二五年からわずか15年間に現役人口(20~60歳)が約一千万人も減少することで、日本経済が深刻な労働

力不足に直面する可能性を示唆しています。しかも75歳以上の人口は二〇五四年まで増え続ける見通しで、これが二〇五四年問題です。

んな社会になっているわけですね。全国各地で人口を増やす活動が行われていますが、なかなか特効薬はありません。だからこそ全国に先駆けて今から超高齢化社会に備えることが必要です。現役人口は減りますが、新たな工夫で「より稼げる」ように後押しをする、シニア世代にもまだまだ活躍いただきながら「もっとつながる」まちを目指す、そして、今ある仕組みを効率化して「社会資源を必要とするに投入できる」まちにしていく…まちのあり方を今から変えていくことはこれからの時代を生き抜くために重要です。

『濡れぬ先の傘』ということわざがありますが、この先必ず課題の『雨』が降ることばかりわかっているのなら傘を用意しましょう。しかもできないだけ早く準備することで、鳥羽では雨でも楽しく過ごせる一日が実現できます。

この地は『先祖からの贈りもの』とよく言われますが、私たちは同時に、『子孫からの預かりもの』でもあるという意識を持ちたいものです。

とばびと
活躍
プロジェクト

トバゴト

Vol.18



トバゴトQRコード

健康福祉課長寿介護係

(生活支援コーディネーター 杉浦徹)

☎(25) 1186

キーワード
#集落支援員
#買い物支援

先日、神島の集落支援員さんが行っている高齢者向け買い物支援のお手伝いをしました。集落支援員さんが高齢者のかたの希望をあらかじめ聞き取りし、買いたい物を用紙にまとめてくれてるので、その用紙を片手に店内を回ります。

高齢者のかたへ届け、お支払いを終えるまでが一連の作業となります。これらの工程を十数名分繰り返す時間と労力は想像以上です。

文字に起こせば簡単な事のようにですが、実際の作業はとても大変です。例えば、購入用紙に「ヨーグルト」と書かれていれば、ヨーグルト売り場に行くことになりませんが、最近のヨーグルトは多種多様で、内容量や購入数はもちろん、価格面などでも頭を悩ませることになります。神島の集落支援員さんのように、日頃から地域を支え、その高齢者のかたの顔や生活がイメージできていないと大変難しい作業です。また、神島の買い物支援では、商品を島まで持ち帰り、仕分けをし、

ひと言で買い物支援といっても、お店へ行く、商品を選ぶ、お会計をする、商品を袋につめる、持ち帰るなど、目や文字では見えてこない複雑な工程や作業がたくさん重なっています。普段、自分自身では当たり前のように行っている買い物という活動も、立場を変えて行ってみるとたくさん気が付きがあり、当たり前が「当たり前ではない」ことを教えてくれました。まちの中にあるさまざまな優しいサービスや支援の裏側には、とても大切なコトが隠れているのかもしれない。

